

大山夏山開き祭



▲前夜祭でのたいまつ行列では、各種団体や仲間、家族での参加が目立ち、賑やかに行われました

大山の夏山シーズン到来を告げる、第62回大山夏山開き祭が6月7日、8日に行われました。

7日の前夜祭では、大神山神社奥宮で神事とザイル祭（ザイル）を奉納するもの、登山用のロープ（ザイル）を奉納するもの）が行われた後、恒例のたいまつ行列がスタート。約2千本のたいまつが、大神山神社から博労座駐車場まで炎の帯をつくりました。

8日は、山頂で登山者の安全を祈願する山頂神事が行われ、関係者や登山客ら300人が参加しました。この日は絶好の登山日和に恵まれ、終日で500人が山頂を目指し、賑やかな1日となりました。

博労座駐車場の特設ステージでは、リードボーカル、ピアノ、チェロで音楽を奏でる女性3人組のクラシカル・ポップスユニットSeptemberと、大山町出身の桂木龍さんのBSSラジオ公開録音が行われたほか、大山賛歌体操のお披露目や大山町出身の小夏さんのミニコンサートのミニコンサートも開かれ、参加者は大山を背に心地よい音楽を楽しみました。



雨ニモマケズ

児童が田植え体験

米作りをとおして、食べ物も大切に育てる気持ちなどを養おうと5月24日（土）、あすなる児童館の主催で田植えが行われました。この日は、あいにくの空模様でしたが、名和小学校や大山西小学校の児童34人が参加。教師、保護者らが見守るなか、ボランティアで参加した押平の松田信子さんと西山榮子さんのベテラン指導者と共に、人権交流センター横の前田勇さん（上福）所有の3アールの水田にも



ち米の苗を手植えしました。子どもたちは、雨具と田植えの姿勢で児童館職員の説明を受けたあと、水田の中へ。「苗は奥まで植えて」「後ろに下がるときは穴をなめるめて」などの指導を受けながら、苗をとりわけひもに揃え、一つ一つ丁寧に植えていきました。中には泥に足をとられバランスを崩して尻もちをつく子も。みんなで助け合いながら1時間後には整然と苗が植え揃いました。

終了後、菖蒲湯につかり泥を流した後、昨年収穫したもち米で作られたぼたもちを口いっぱいにはおぼり満足した様子でした。

秋にはカマで稲刈りをし、はで木にかけ脱穀し、10月の収穫祭でもちつきをして食べる予定です。